

# 2019年 3月期 決算ハイライト

ティアック株式会社

<https://www.teac.co.jp/jp/>

証券コード6803

2019年5月10日

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 2019年3月期 決算 ハイライト

単位：百万円	前期	当期	増減
売上収益	17,016	15,682	▲ 1,334
営業利益	330	601	+ 271
親会社の所有者に帰属する当期利益	249	51	▲ 198
資本合計	911	1,320	+ 409
純資産比率	8.9%	14.2%	+ 5.3%

## ■ 売上収益

- 音響機器は増収となったものの、情報機器は前期の大型受注案件が当期はなく減収となったこと、およびその他セグメントの減収により、全体として▲13.3億円の減収

## ■ 営業利益

- 売上総利益率の改善、前期に実施した固定費削減等の損益分岐点低減施策の効果、また介護記録システム事業の譲渡益（2018年5月8日開示）、海外子会社の清算損失（2019年1月25日開示）、計2.3億円の計上も加わり6億円と増益

## ■ 親会社の所有者に帰属する当期利益

- 営業利益は改善したものの、為替差損の発生等により、親会社の所有者に帰属する当期利益は51百万円に減少

## ■ 資本合計（純資産）

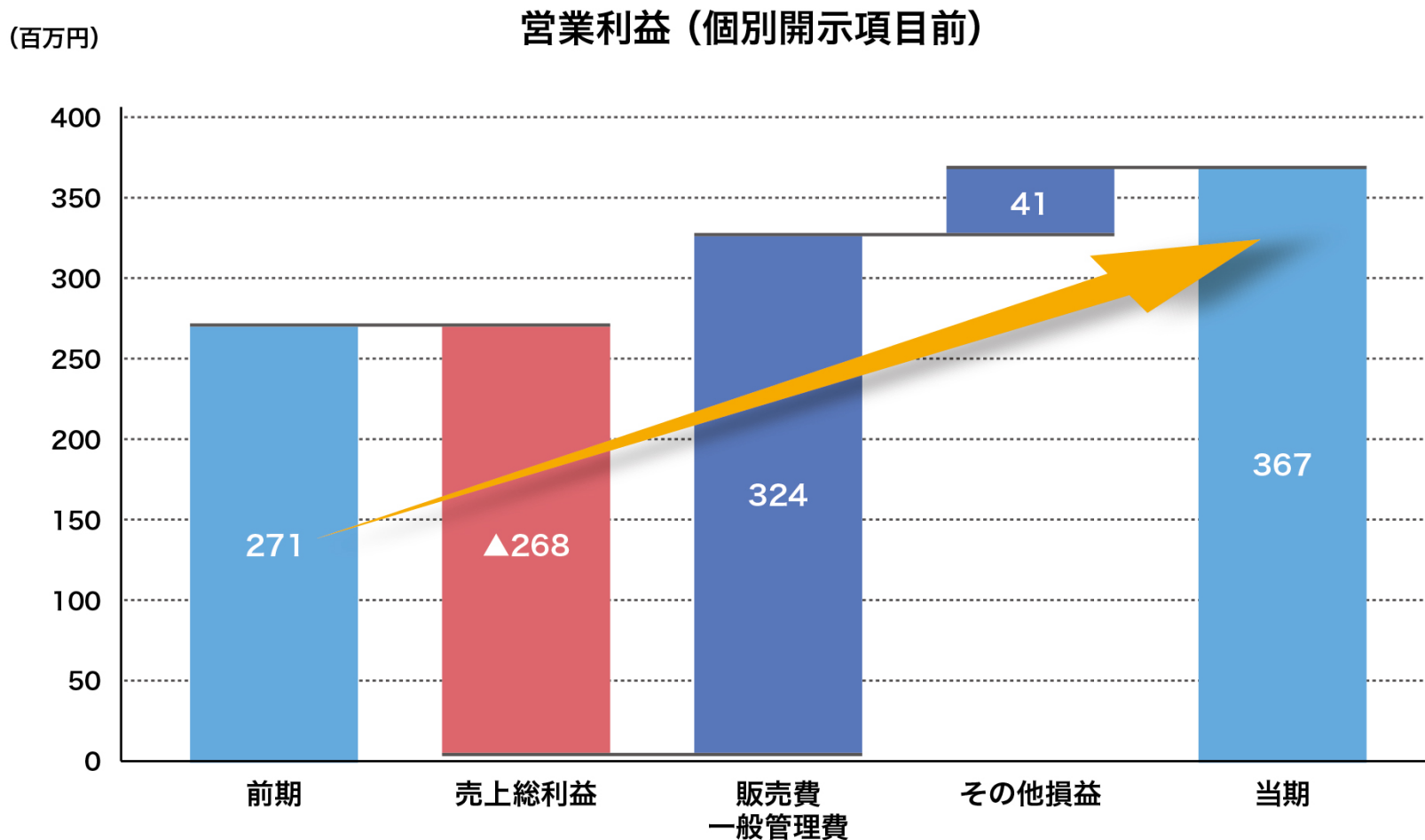
- 前期末に9.1億円であった資本合計（純資産）は当期末は13.2億円と4.1億円増加し、純資産比率も14.2%と+5.3%改善

## ■ 継続企業の前提条件に関する重要事象等

- 継続企業の前提に重要な疑義を生じられるような事象又は状況は解消

# 営業利益（個別開示項目前）

- 本業の業績を表す営業利益（個別開示項目前）は、情報機器事業の減収にて売上総利益が減少したものの、前期までに実施の損益分岐点低減施策により改善し増益。

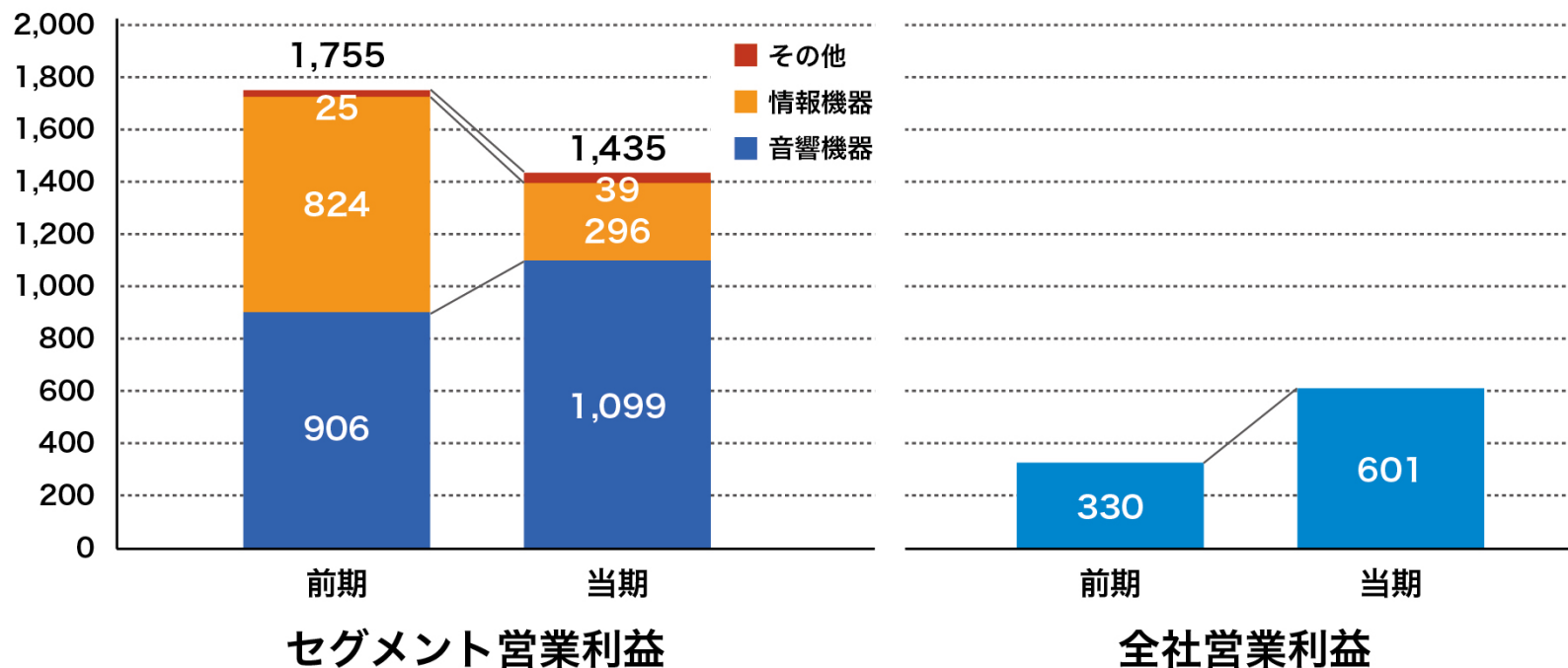


# 事業別セグメント営業利益・全社営業利益

- 音響機器：新製品の投入、BtoB事業へのシフトにより増収となり、売上総利益率の改善、損益分岐点低減施策等によりセグメント営業利益も増益。
- 情報機器：前期は複数の大型プロジェクトによる増益があったが、当期は大型プロジェクトがなく減収となったことからセグメント営業利益は減益。
- 全社営業利益は前期に実施の損益分岐点低減施策の効果、介護記録システム事業の譲渡益も加わり増益。

## 事業別セグメント利益・全社営業利益

(百万円)



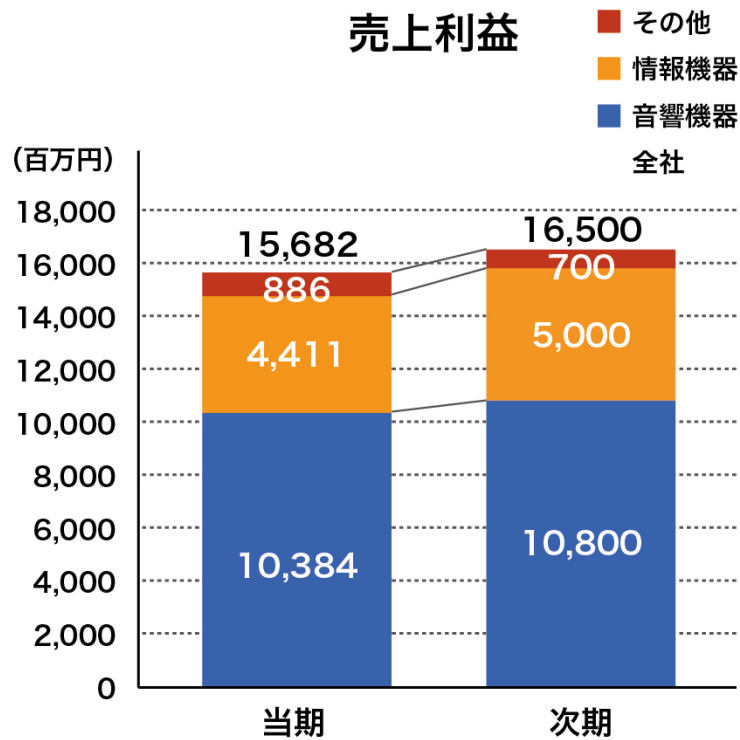
# 次期（2020年3月期）の見通しへのポイント

- ✓ 当期をもって、事業構造と収益構造の改革を、ともに完了。全社損益分岐点は大幅に低下し、利益を生みやすい収益体質となった
- ✓ 営業利益（個別開示項目前）の2期連続増益、および、当期利益の2期連続計上が、構造改革完了と収益安定化を裏付け
- ✓ 次期は、安定的な事業成長をめざし、BtoB事業領域への投資を一層拡大計画
- ✓ 業務用オーディオ機器、情報機器とも、「BOX + SOLUTION」戦略\*のもと、更にユニークな新製品・新ソリューションの導入を計画

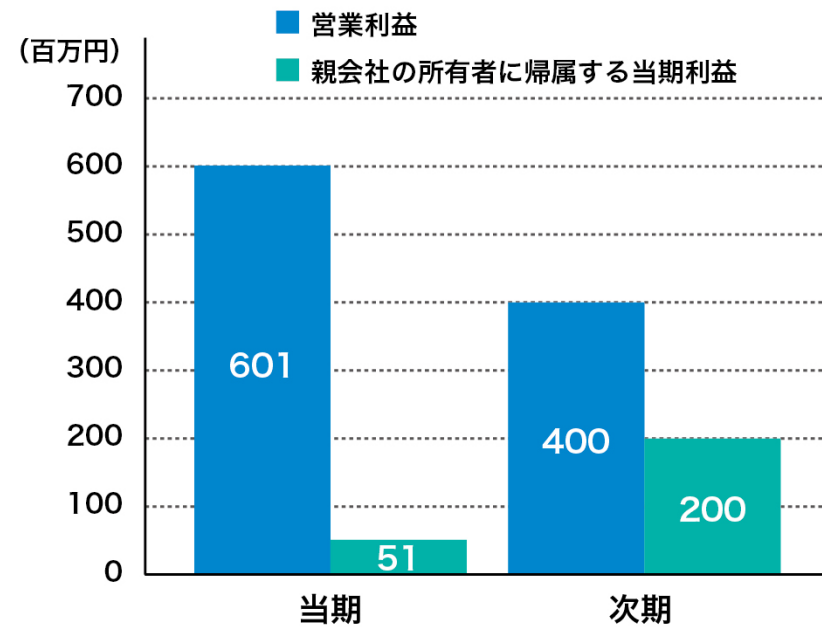
\* 「BOX + SOLUTION」戦略： 機器の開発・販売に留まらず、クラウド・IoT・5G等の新技術がもたらす利便性を、ユニークなソリューションとしてエンドユーザーに提供し顧客満足度を高めることで、BtoB事業の安定的な成長を目指すもの

# 次期（2020年3月期）の見通し

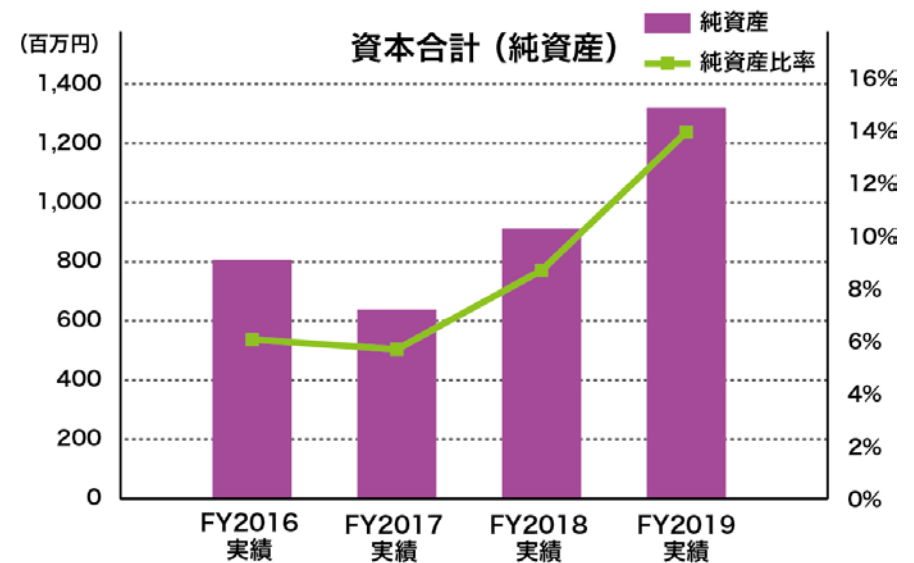
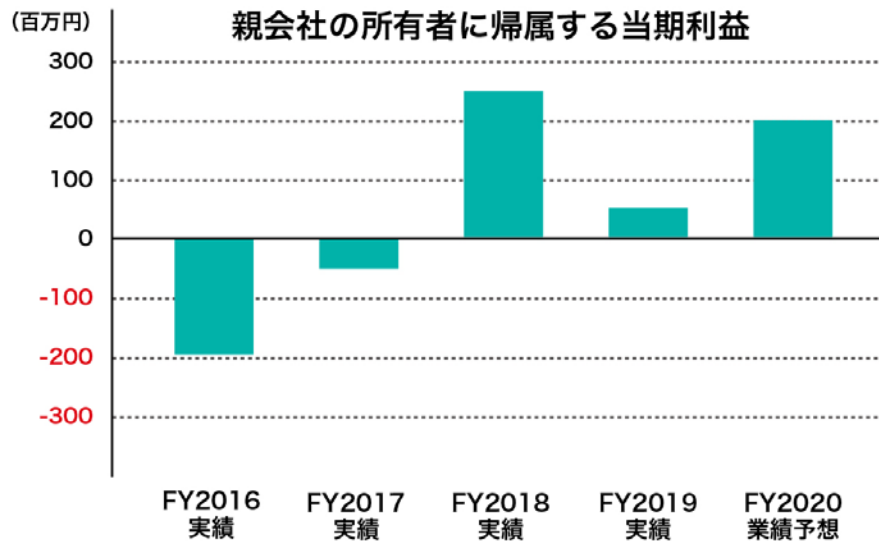
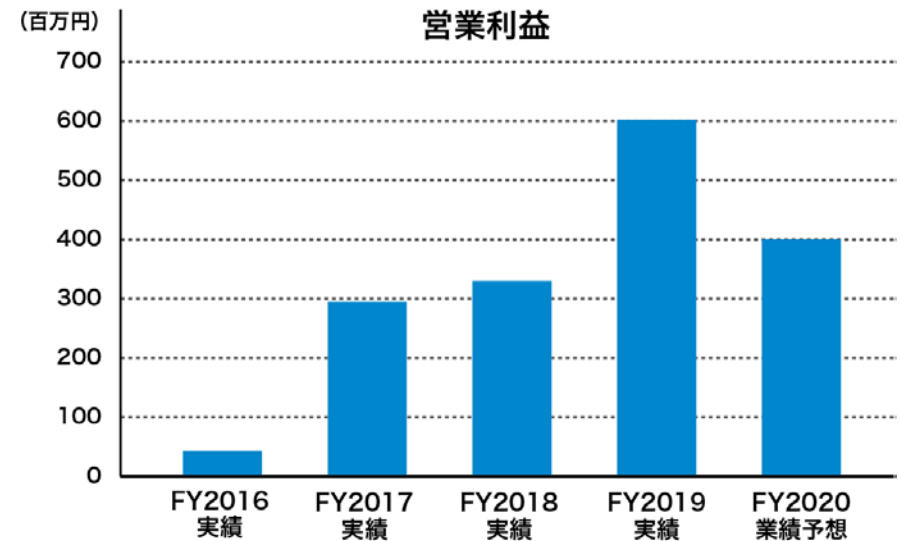
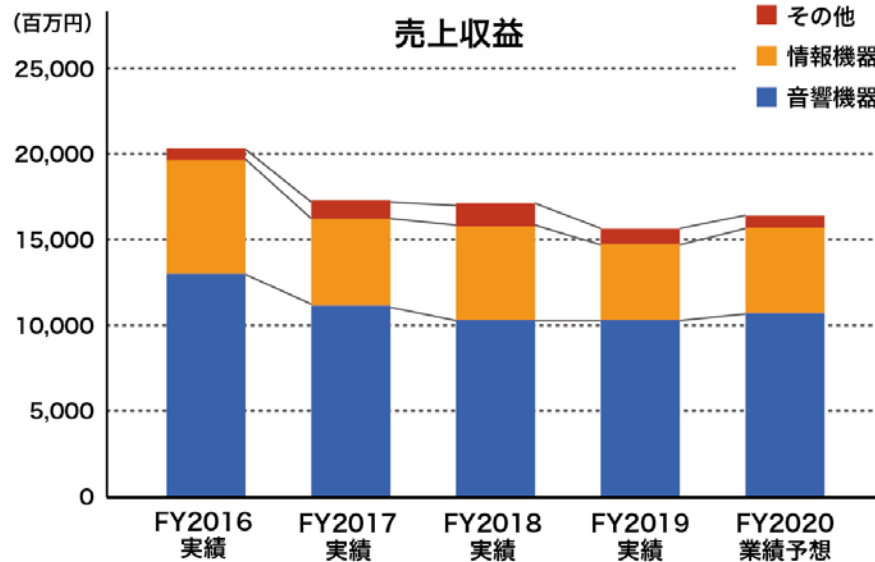
## 売上利益



## 営業利益 親会社の所有者に帰属する当期利益



# 売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、資本合計推移



# トピックス 1

## ■ 一般オーディオ機器



アナログターンテーブル『TN-4D』

アナログターンテーブル『TN-4D』を2019年3月より販売開始いたしました。『TN-4D』は新開発のブラシレスDCモーターをスタイリッシュな薄型ボディに収めたダイレクトドライブ方式のアナログターンテーブルです。新開発の薄型ブラシレスDCモーターとフィードバック制御により、水晶精度の正確さとコギングを抑えた滑らかな回転を実現。また、従来のモーターに比べ薄型の設計にしたことで、今までのダイレクトドライブ方式ターンテーブルでは望めなかったスタイリッシュな薄型に仕上げることができました。

## ■ 高級オーディオ機器

2019年3月に、ESOTERICのフラッグシップモデル『Grandioso P1X』と『Grandioso D1X』を発売開始いたしました。

今回、ブランド設立以来、ESOTERICがこだわり続けてきたスーパーオーディオCDトランスポート・メカニズムの基幹技術のVRDSを一新。最高の音と感動を目指し、VRDS-ATLASを開発。3月の発売以降、メディア、販売店から好評を頂いております。



SACD Transport 『Grandioso P1X』  
Monoblock D/A Converter 『Grandioso D1X』



## ■ 音楽制作・業務用オーディオ機器



『DR-05X DR-07X DR-40X』

2019年2月に販売された『DR-05X』『DR-07X』『DR-40X』は、これまでロングセラーを続け、ご好評を頂いていた「DR-05」「DR-07MKII」「DR-40」に大幅な機能強化を加えたリニアPCMレコーダーです。

特に大きな機能強化として、全モデルに2イン/2アウトのUSBオーディオインターフェース機能を追加。内蔵マイクをUSBマイクとして使用することも可能です。さらに文字起こし再生モードも搭載。人の声に特化したEQプリセットで、より明瞭な声の再生を可能にし、ジャンプバック再生により、瞬時に録音ファイルを再生することができるようになりました。

『DR-Xシリーズ』は録音を必要とする全ての皆様のニーズを満たすだけでなく、オーディオインターフェース機能により、配信や収録用途にも最適なデバイスとして生まれ変わりました。

## ■ 情報機器



『PortaStream™ PS-V50』

PortaStream™は航空機搭載用に開発された小型軽量の電池駆動式ポータブルストリーミングサーバーです。機内の任意の場所に設置し、ワイヤレス通信を利用して乗客のPC/タブレット/スマートフォンなどの携帯端末にコンテンツ配信を行います。

PortaStream™1台で50台の端末に対してコンテンツの同時配信が可能で、オンデマンドにて、ビデオ、オーディオ、ムービングマップ、eBookなどの機内エンターテイメントを楽しんで頂けます。

PortaStream™は、機体側配線との接続を必要としないため、機体の改修工事が不要。そのため、STC認証も不要となり、認証取得や改修工事といった導入費用の大幅に削減にも貢献します。